

# 平成28年2月27日 地域移行支援多職種連携研修 報告・アンケート集計

参加者数:185名

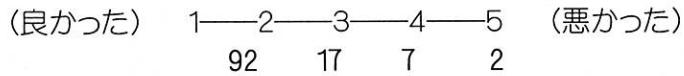
精神保健福祉士会 74名 相談支援事業連絡会 33名 曰精看 33名  
作業療法士会 22名 行政・その他・ピア 23名 合計 185名

## ●アンケート集計(アンケート回収数120)

**所属** 医療機関 83名 障がい福祉サービス等 26名 高齢者関係施設等 0名  
行政機関 3名 社会福祉協議会 4名 その他 3名(訪問看護ステーション)  
**主たる職種** 看護師 19名 保健師 3名 作業療法士 18名 相談支援専門員 15名  
ピアスタッフ 2名 社会福祉士 1名 精神保健福祉士 56名  
介護支援専門員 0名 行政職 0名  
その他 6名(臨床心理士、職業指導員、当事者)

## 1.研修会の内容について感想をお聞かせ下さい。

### ①講義



#### 具体的な感想 (抜粋)

##### 【看護師】

- ・分かりやすく地域移行支援が学べました。治療が終わったら地域へ帰る…ごく普通の事が出来ない現状に向き合うべきですね。
- ・長期入院の患者さんが退院できることは医療者の責務ということだったが、確かにそう思う。また、曰頃から患者さんの退院したいという思いや、その患者さんの退院へのきっかけを持ってもらうように関わっていきたいと改めて感じた。
- ・地域移行支援多職種連携と言うけれど、漠然としていることが多いです。話を聞いて、相手を批判するのではなく、期待することに置き換える、どうしたら物事が上手くいくのか自分の役割でカバー出来ることはないか考える「協働しよう」という気持ちになるを念頭に置き、連携するにはどうしたら良いか考えていきたいと思いました。
- ・PSWの視点からの講義を受けることが出来て良かった。地域移行支援について、今回詳しく知ることが出来た。
- ・退院させたい気持ちが看護側にあるだけではなく、本人の意思はどうなのか、不安なことは?患者さんの家族不安等にも対応していかないと再確認出来ました。話も分かりやすく理解しやすかったです。
- ・分からぬ話も多くありました。自分の勉強不足、情報収集不足であると感じました。看護師として、何ができるのか、自分の専門がどこで何が強みなのか、限界はどこかを見定めることが必要だと思います。病院の中で出来る支援と病院の外で必要な支援の理解を進めたいです。
- ・業務の中で何を目標としているのかを改めて考えさせられた。受け持ちPt、家族との関わりは現場でNsが一番近い立場に居るといって過言ではない。何かしら体験値を取り戻す為にも関わりを増やし、家族の支援にも力を入れていきたい。
- ・地域支援連携の大切さが分かった。ただ、病床をうめるための、収益の問題がネックになっているので、そちらの問題を解消出来ないとなかなか先には進まないな…と
- ・長期入院しているPtを対象とした話だったので、長期間入院している人だけでなく、入退院を繰り返している人の対象の話もあると良かった。
- ・とても分かりやすい講義でした。病院で働いている看護師として、これからどういうふうに支援していくかがはっきりと分かりました。
- ・病棟で患者さんを見ているだけでなく、退院に向けた外出し、寄り添い、自分から地域に相談出来るようにならないといけないと感じた。

##### 【作業療法士】

- ・地域移行支援の歴史や流れ、連携の必要性を再認識することが出来た。現在訪問看護事業所で勤務しているため、在宅生活の維持、向上の支援をしているが、続けられるよう、福祉、行政と連携をしていかなければならないと思った。
- ・地域移行への難しさもあるが、課題も見えているので、何から取り組んでいきたいと思った。
- ・断らない支援に共感出来ました。支援とは何かを考える機会となりました。介護保険も視野に入れなければ…

- ・自己選択の為に情報をしっかりと提示し、選択の幅を広げることの大切さを感じた。
- ・就労支援の大変さ、生活を社会ということの困難をとても感じます。実際に地域に出ている人もいることは知りました。が、一番難しいのは継続だと思います。情報として良い情報を知ることが出来ました。ありがとうございます。
- ・地域移行支援を歴史的背景と実践を交えてお話し頂き、とても分かりやすかったです。「連携」、「協働」と言葉だけでは簡単であるが、それを今の自分状況に置き換えると難しさを感じた。しかし、講義の中で「地域のチームで考え続ければ、道は拓く」とあったが、まずはどうやれば実践出来るかを考えてみようと思った。

#### 【相談支援専門員】

- ・実践されている事を解りやすく、ご本人の言葉で楽しく話して下さり良かったです。ビデオの選定も良かったです。19年間入院された方が、笑顔で「仕事は楽しい」と言われたのは感動と併に地域移行を進める意味を感じました。
- ・確かに宮崎でも支える地域の力が弱いように感じる。病院側も相談支援事業所をどのように活用・連携していくべきか分からぬと思います。逆も同じかと。連携体制、同じテーブルで話し合う、考える場の必要性を大いに感じた。これからの業務に活かしていくことを感じられました。
- ・テンポよく、また聞きたいことを的確に話して頂きました。言葉が分かりやすく自分の中にすっと落ちてくる感じでした。さらっと話していましたが、まさしく「本人中心の支援」を実践されていると感じました。
- ・児童の相談支援に携わっています。「地域移行」なかなか進まない重たい課題…というイメージがありました。今日のご講義を聞かせて頂いて「わくわく」してきました。そして児童さんの相談支援にも通じるものがあるな…と感じました。児童さんの相談支援は保護者さんとお話ししていくことが多いのですが、私が大切にしたいことは、とにかく「ご本人中心」の計画作成です。
- ・断らない福祉の吉野氏、山口さんの実践のDVD、感動した！感激した！すごい！…で終わらしてはいけない。そうです、出来ることから地域で始めていきます。
- ・退院支援は職業としての責任だと思いました。何の為に仕事をしているかの「虚しさ」を埋めてもらいました。
- ・実際の支援を例に挙げられ、とてもわかりやすかった。病院からの地域移行の数字が具体的でイメージが分かりました。「もっと早く退院すれば良かった」という当事者の言葉はとても思います。
- ・医療から福祉（地域）への移行の難しさが具体的な内容で分かりやすかったです。同事業所や法人で抱え込みのない支援が出来て、地域移行出来ると良いと感じた。

#### 【精神保健福祉士】

- ・制度のところから実際のケースの話もあり、とても分かりやすかったです。
- ・福祉の立場からの前向きな意見や考え方を聞き、心強く感じた。同じテーブルでものごとを考える必要性の大切さも理解出来た。
- ・院内だけでなく、いよいよ地域での多職種連携という時代になってきたのだと思った。24時間365日は理想だが、実現出来れば良い。昔から顔の見える関係は言われているが…。高齢者の施設への退院が多くなっているし、入院が多くなっている。
- ・動画がすごく良かったです。最初から「難しい」、「無理だろう」と決めつけるのではなく本人の可能性を信じて支援していくことが地域移行に繋がっていくと思いました。
- ・これまでの政策、実際やってみてどうだったのか、宮崎県はどうなのか、考えさせられました。DVDで生の声も聞けて、これから支援をもっと考えていきたいという想いになりました。医療側で出来ることは何か、常に考え続けていきたいです。
- ・各専門職が、批判だけをするのではなく、地域で支える為に何が出来るのかを考え、連携と繋がりをもって地域移行を進めていく様子に、まずは顔見知りになること、当事者の話に耳を傾けることを大事にしていきたいと思った。
- ・地域移行支援事業を利用せずに退院しているケースがあっても、行政側より「地域移行出来ていない」と言われ、協議会等で肩身の狭い思いをしていました。吉野先生が「病院のせいだけじゃない」と言われて、心が救われた感じです。ありがとうございます。
- ・すごく分かりやすく、今後どうしていったらいいのか、今何が出来るのか考え、ちょっと先が見えた気がします。「お迎えに行く、お迎えを待っている」という言葉が印象的でした。DVD感動しました。制度や現状を踏まえ、話があったので、頭に入ってきて良かったです。退院支援の意識が高まりました。
- ・住む選択肢を広げていくことが大事。図がたくさんあって、繋がりや流れが分かりやすかったです。
- ・これまでの経過など分かりやすく話が聞けました。病院ばかりの責任ではなく福祉の面からの視点での分析をしてもらい、本当に良くわかりました。
- ・今まで地域移行は「病院に押し出す力がない」とか、医療が主になって動かないといけないという風潮があったように感

じられていた。しかし、今回の講義で今まで何で地域移行がなかなか進まなかつたかの変遷も良くわかり、福祉と医療の連携のあり方を改めて考えさせられました。医療側として、本日の講義を聞いて正直すつきりました。

・在宅支援に携わる一人として、地域移行・定着に対して更に意識を持つ気持ちになりました。職種的にも行政、事業所、医療機関など様々な社会資源のパイプ役として、今回学んだことを活かしていきたい。「相手を批判するのではなく、期待することに置き換える」を意識してみます。

・「相手を批判するのではなく、期待することに置き換える」。連携を難しくしているのは、まさにここかなと実感しました。

・医療機関が抱える悩みについても触れて頂いた上で、今何をすべきか話して下さったので、自分なりに考えをまとめて、日々の支援に当たりたいと思った。Ptが退院という選択が出来るよう、Ptへの関わりを工夫したいと思った。自分担当Ptの顔が浮かんで、色々考えさせられました。

・地域移行支援に関する研修会に何度も参加しましたが、対談形式で、色々な立場での話が聞けました。

・日々の業務でPt支援を行っているが「Pt自身の希望を実現する為に」という観点での支援努力の不足部分を改めて実感出来た。

・退院に向けての取り組みに地域の受け皿がどれだけ積極的に動くかが重要なのかを改めて知ることが出来ました。

・他県の現状を聞くことが出来て、私自身の地域ではどのようなことをしていけるのかと考える機会となりました。

・以前他県でMSWをしていました。宮崎でPSWの仕事を始めた時、行政、福祉、医療の遅れにびっくりしたのを覚えています。自分が勤務している病院の悪口を言う訳ではありませんが、福祉に対する理解が得られず、悶々とする日々を送っていました。山口さんのVTRを観て、やる気が出てきました。吉野さんのお話もすごく良い勉強になり、学ばせて頂きました。有難うございました。まだ、経験も浅く、私にやれることなんかないのではないかと思っていたが、私にも出来ることを探しだしていきたいと思いました。

・他機関を批判するのではなく、自分たちに何ができるか自分たちから動くという熱意に感銘。

・デイケアに所属していますが、地域移行や定着に向けて出来ることを考えながらプログラムや支援等を考えていきたいと思いました。

・地域移行支援の実態を学ぶことが出来ました。あきらめない気持ちが大事なのかなと思いました。

・長期入院患者様に対し、退院へ向けた取り組みへ繋げていくことはなかなか簡単なことではないが、チャレンジしてみることを恐れること。様々な職種の力を借りて助け合うことを、今回の講義を聞き、今一度考えさせられました。

・現状が分かった。地域移行や連携をあきらめないことが大切だと改めて気づかされた。

・同じ職種でも、所属、立場により、見え方、受け取り方が違うということを実感し、もっと知る必要があると感じた。

・他県での取り組みを詳細に知れて良かった。今後自分がどういう意識で業務に従事していくべきかを考えるきっかけになると思いました。

・支援を行った事例や医療機関ともどのような連携の動きをしたのかも分かりやすく聞くことが出来、有意義だった。

### 【ピア】

・千葉県単独で中核地域生活支援センターを実施していることに驚きました。

・ピアなんですが、前半は難し過ぎて良くわからなかった。後半は楽しめました。ピアも居ていい研修なので、もう少し分かりやすくてもいいのかなと思いました。自分は入院経験はないのですが、ピア併障がい者支援員として、これを広めていかないといけないなと思いました。ペーぺーの支援員ではなく、地域関わっている支援事業にも研修が必要だと思いましたので、考えてもらえるといいなと思います。

### 【保健師】

・他地域のことを知る機会は少ないので聞けて良かった。千葉は中核センターを県をあげて整備したと聞いているので、そうした取り組みも素晴らしいと思った。

・地域の受け皿について再度考え直す必要があると感じました。「断らない地域」が印象に残りました。

・先週、昨日、今日とお話を聞かせて頂き、連携して関わることの大切さについて考えることが出来ました。取り組みの実際を聞き、色々な人の考え方を聞き、それを自分の地域でどのようにしていくかを考えていくことが大切だと感じました。

### 【その他】

・実際に連携している例を挙げて説明して下さったのは良かったです。もっと、その連携の中身や事例を聞きたかったです。(B型 職業指導員)

・「入院したら迎えに行かない」は確かにその様なことはあると感じる。60床で見た時の数字はとてもリアルでした。

「相手を批判するのではなく、期待することに置き換える」ことは大切だ。先週に続いて山口さんの動画が観られて良かつた。先週観た動画と後半部分が違うように思いましたが…色々なバージョンがあったんですね。(臨床心理士)